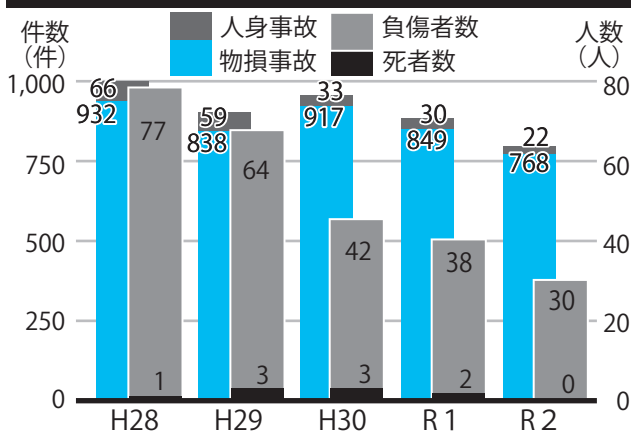




長門市の事故件数と負傷者・死者数の推移



▲雪の日でも安全を見守るために立哨が行われている

令和2年は、1960年に統計を取り始めて以来、長門市内における交通事故が初めてゼロとなり、物損事故・人身事故・負傷者とも過去最少を記録しました。

交通事故を無くすためには、一人ひとりが交通ルールやマナーを守り、交通安全意識を高めることが大切です。

今回は交通安全の各分野で日々活動している人たちを紹介し、一人ひとりができることを考えます。今後も交通死亡事故がゼロのまち、交通事故を起こさないまちづくりを皆さんといっしょに進めていきます。

みんなが交通ルールを守って  
交通事故を起こさないまちに

特集 交通安全

年間交通死亡事故ゼロを達成



# 長門市の交通事故の現状

## 交通事故件数ゼロを目指して

1970年の全国の交通事故死亡者数は、16,765人にのぼり、第1次交通戦争と呼ばれました。本市においても同年における死亡者数14人、人身事故件数249件、負傷者数311人を記録しています。

その後、法整備や道路環境整備が進むとともに、交通安全啓発に取り組んだことから交通安全意識が高まり、昨年の全国の交通事故死亡者数は、統計開始以来最少となる2,839人にまで減少し、本市においても人身事故件数22件、負傷者数30人まで減少しています。

しかし、交通事故が無くなったわけではありません。引き続き、見守り運動や交通安全啓発に努めるとともに、市民一

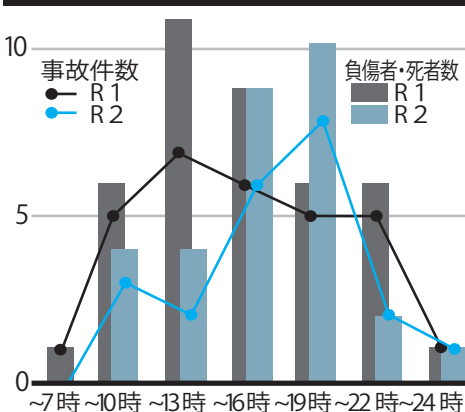


▲交通安全パレードで事故防止を呼びかけ



▲交通安全母の会による見守り下校

### 時間帯別の事故件数と負傷者・死者数



人ひとりが思いやりの気持ちと安全に対する高い意識を持つことが事故の減少につながります。

## 地道な取組の積み重ねで

## 市民の交通安全意識は高まってきています

令和2年、長門警察署管内において交通死亡事故ゼロを達成できました。これは県内13市では長門市だけです。

その理由としては、75歳以上のドライバーを対象とした認知機能検査の導入により、免許の返納を行う人が増えたこと、コロナウイルス感染症の影響で、外出機会の減少により、家族、地域間で過ごす時間が増え、つながりが強くなったことなどが考えられます。

しかし、最大の要因は、地域ボランティアの皆さんが行っている交通立哨などの交通安全啓発による地道な取組が実を結び、長門市民の交通安全意識が高まったことだと考えています。

長門市の交通事故の特徴として、夜間に比べて昼間の交通事故が多く、



山口県長門警察署 福澄 淳一 交通課長



▲長門警察署による小学校での交通安全教室

中でもスピードの出しすぎによる車線のはみ出し事故が多いことです。また、高齢者の運転免許保有率が高く、高齢者の交通事故の割合が高いことも特徴として挙げられます。

市民の皆さんは、法定速度を守り、はみ出し運転をしないように走行してください。スピードを出したままだとカーブを曲がり切れずに車線をはみ出し、事故につながります。

交通事故はいっ起こるか分かりませんが、普段から自分中心に考えるのではなく、まわりの人の気持ちを考えながら、誰もが当事者意識をもって、運転に真剣に向き合っていたらと思います。



# まずは自分たちが安全に気を付け 子どもと高齢者の見守りにつなげる



▲仙崎地区の交通安全母の会の皆さん

交通安全母の会は、婦人会を母体として、小学生の見守り下校や高齢者世帯への訪問を主な活動としています。

4月は毎週、その後は月に1回子どもたちと一緒に下校していますが、子どもたちはとても行儀が良いですね。こちらから声をかけると「ありがとう」と元氣よく返してくれますし、班長さんが先頭になって一列に歩き、歩道からはみ出すことなく下校しているので、見ていて安心です。学校や家庭での指導のたまものだと感じます。

秋には交通安全の啓発と見守りを兼ね

## 長門市 交通安全母の会



▲昨年秋に高齢者宅を訪問

て高齢者世帯宅を訪問しています。

コロナ禍で人と会う機会が少なかつたこともあって、訪問するとしても喜んでいただきま

した。小学生が書いてくれたメッセ



▲小学生が書いたメッセージ

ィットを渡して「夜歩くときには、反射材を忘れずにね」と声をかけたり、免許の返納についての相談をしています。

交通安全はお互いがきちんとルールを守る事が第一だと思えます。今後も楽しみながらこの取組を続けていきたいと考えています。

# 子どもたちが安全に通学できる

## 事故のない地域を目指します

長門交通安全協会では、皆さんからの会費により反射材やのぼりなどの交通安全啓発グッズの購入や市内に13ある支部の活動費に充てたりしているほか、小学校の新一年生に「交通安全ブック」を贈呈するなど交通安全意識の向上に努めています。

私は、年5回の交通安全運動期間を中心に、子どもたちが通学する時間帯に広報車でアナウンスをしながら走行しています。子どもたちが元気に歩いている姿を見ると、交通事故に遭うことなく、毎日の生活を送ってほしいという思いを日に日に強く感じています。

また、主要な横断歩道には地域のボランティアの皆さんや、協会支部の皆さん



藤本 幸子 事務局長

## 長門 交通安全協会



▲広報車で安全を呼びかける



▲グッズを配布して啓発

が子どもたちの安全のために、寒い日や雨の日でも欠かさず立哨しておられ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。長門市では、交通安全協会の加入率が5割を下回っています。皆さんからの会費を交通安全意識啓発事業として利用させていただきますので、加入のご協力についてよろしくお願ひします。

# 子どもたちの安全を守るため

## 常に初心を忘れずに

交通指導員として47年間、明倫小学校

と三隅中学校前の交差点に立っています。当時はまだ国道で、交通量が多く、大型トラックも多く走行していたため、児童・生徒の安全を守るため、三隅町役場から依頼されて引き受けました。まだ信号機もなく、子どもの数も多かったため、日々緊張の連続でした。

子どもたちに道路を横断する際の危険を知ってもらうため、危ない行動をする児童に対しては、あえて叱ったりすることもあります。交通安全意識を高めて、学校生活を楽しく過ごしてほしい



入江 寛 さん

という気持ちで指導しています。

子どもたちは地域みんなの宝です。大雨やみぞれが降る日、寒波の日など大変な日もありますが、辞めたいと思ったことは一度もありません。子どもたちの大きなあいさつで元気をもらえます。交通指導を欠かさず行うことで、70歳を過ぎても健康に過ごすことができます。

今の子どもたちはしっかりしていてとても素直です。大きな声であいさつしてくれるのでとてもうれいす。なかには交通指導員を始めたころの児童に今では孫がいたり、親となり、その子どもが児童・生徒として登校しているなど、年月の長さを感じます。これからも安全を守るため、目配り・気配りを欠かさず、緊張感をもち、常に『初心の心』を持って活動していければと思います。

### 長門市 交通指導員

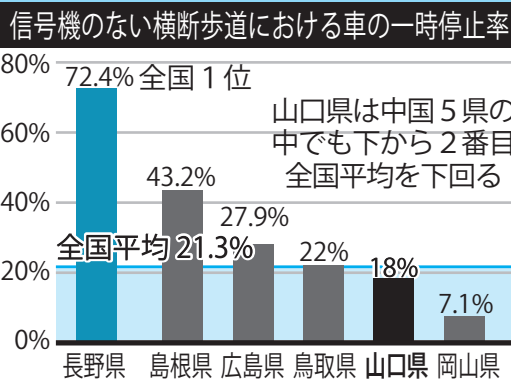


▲子どもたちは元気にあいさつ

## 横断歩道での歩行者優先はマナーではなく、ルールです！

信号機のない横断歩道を歩行者が渡ろうとしている場面で、多くの自動車が一時的に停止しておらず、歩行者が危険を感じる場面があります。山口県では一時停止している自動車は18.0%にとどまり、全国トップの長野県の72.4%を大きく下回り、全国平均の21.0%にも届いていません。【2020年、JAF（日本自動車連盟）調べ】

横断歩道は「歩行者が道路を安全に横断することができる場所」です。ドライバーには、横断歩道直前での一時停止（あるいは徐行）をする義務があります。気持ちに余裕をもって、歩行者が安全に横断歩道を渡れるようにしていきましょう。



## 横断歩行者を守りましょう！

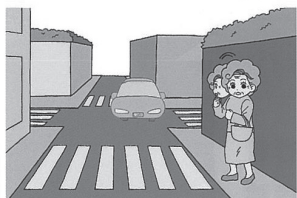


ひし形のマークが見えたら減速し、歩行者がないかを確認しましょう。

### ◆減速

車両などが横断歩道に接近する場合は、その横断歩道の直前（停止線の直前）で停止できるような速度で進行しなければなりません。

※ただし、歩行者・自転車がいないことが明らか場合は除きます



### ◆一時停止

歩行者・自転車が横断歩道を横断しているときや横断しようとしているときは、その手前で一時停止しなければなりません。

また、その歩行者などの通行を妨げないようにしなければなりません。

